

今後の松阪地域における高等学校の学びと配置のあり方について

1 学びと配置のあり方の方針

地域の中中学生と保護者のアンケート結果や、令和4年度から令和7年度までの協議をふまえ、以下のように「学びと配置のあり方の方針」として整理しました。

- 「未来を切り拓く力」や、コミュニケーション能力、課題解決能力に加え、問いを立てる力、あきらめずに困難に立ち向かう力などの資質や能力を育む教育環境が大切である。
- 地域を大切に作る心や、地域を愛する心を育むための「地域に根差した学び」を推進する必要がある。
- 急速に社会の変化が進む中、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材を育成するとともに、将来の松阪地域の担い手育成の視点から、小中学生に地元の高校から情報発信するなど、小中高が連携したキャリア教育に取り組むことが大切である。
- 進学ニーズに応える高校については、専門性の高い教員を各科目に配置することが求められることから、1学年あたり6学級を下回らない学級数で配置することが望ましい。
- 当地域には、農業、工業、商業、家庭の職業系専門学科が設置されており、これから先も地域を支える人材を育成することから、専門学科の学びの選択肢を提供しつつ、提供可能な学級数を確保することが望ましい。
- 学校行事や部活動の活性化の観点から、一定規模の学級数を維持することが望ましい。
- 多様化するニーズにあわせ、全日制課程や定時制課程や通信制課程の枠組みにとられない県立高校の学びのあり方を検討する必要がある。
- 多様な背景をもつ子どもたちを含め、当地域の子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育環境が提供されるよう、子どもたちのことを第一に考え、議論する必要がある。
- 地域の子どもたちが、この地域の高校に通い、学んでみたいと思えるよう、高校の特色化・魅力化についての議論を進める必要がある。
- 再編を検討するにあたっては、多様な学びの教育環境を整備しつつ、通学に係る状況にも配慮する。
- 老朽化対策や防災、近隣地域との再編などを視野に、建替えなどの議論も進める必要がある。
- 15年先の状況を視野に入れながら、その過程にある令和10年度と11年度に想定される合わせて5学級減への対応について協議し、令和8年度までに方向性をとりまとめる。

2 15年先の学びと配置のイメージ

1学年あたり10～13学級となることが見込まれる15年先に、「学びと配置のあり方の方針」をふまえた教育環境の提供を実現するためには、どのような学びと配置をイメージしますか。

なお、15年先の学びと配置のイメージは、現時点の高校を取り巻く教育環境から想定するものであり、学級編制や教員配置の見直し、人口減少の状況や社会構造の変化などにより教育環境に変化が生じた場合は、見直すものとしてお考え下さい。

